

非主食用米（飼料用米等）に係る普及指導活動手法

都道府県名：長野県

普及指導センター名：佐久農業改良普及センター

【地域の概要及び取組の背景】

立科町は長野県の東部に位置し冷涼、寡雨な地域にある。町の北部は水稲作を中心として果樹栽培・畜産が盛んだが、耕地の多くが水はけの悪い強粘土質土壌で転作作物の導入が困難であり、調整（水張り）水田・自己保全管理水田の増加が目立っていた。また、同町内の肉用牛肥育農家では地域内で水稲の収穫にコンバインの利用が広がり、飼料用ワラの確保が困難になってきたことや、近年は輸入粗飼料の安全性が懸念されるようになったことで安全・安価で高品質な地元産粗飼料の供給を望む声が高まっていた。

以上から耕種・畜産農家の課題解決を図るため、JA佐久浅間、立科町、佐久農業改良普及センター等で検討し、平成13年から飼料イネ（稲WCS）の導入を推進した。

【取組の具体的な内容・成果】

1 取組の概要

佐久農業改良普及センターでは、平成13年度から飼料イネの試験栽培、収穫機械の試験運用、飼料イネ（稲WCS）の給与技術の検討及び生産・利用組織の設立支援等に取り組んだ。平成15年に組織が設立され、16年に収穫機械が導入されたことで事業の仕組みがほぼ完成した。現在は水稲湛水直播栽培技術の導入による低コスト生産の推進、飼料イネ給与が肥育牛に与える効果の確認、飼料イネを給与した牛肉のブランド化等について関係機関と連携して支援している。

2 特筆すべき取組内容

(1) 非主食用米の生産利用に向けた関係機関等による推進体制の整備、農業者等に対する意向把握

- ・取り組み初年度の平成13年は、飼料イネ栽培試験圃場0.7haを設置した。栽培期間中に現地検討会を開催し、町内の水稲農家に試験圃場での取組みを紹介して飼料イネ生産を呼びかけた。
- ・収穫は農機具メーカーの協力により平成13～15年にかけて収穫機の試験運用を実施してサイレージロールを作製、収穫作業体系について畜産農家の理解を深めた。
- ・飼料イネの給与については、先進地の給与状況や試験研究成果等の情報を畜産農家に提供して、飼料イネ利用への不安を払拭するよう努めた。

(2) 非主食用米の生産農家の確保

- ・平成15年に飼料イネ生産組合を設立。毎年、JA営農センターにおいて立科町の水稲農家に呼びかけて参加者を募集している。栽培者の若干の出入りはあるが平成16年以降、栽培者数約30名、栽培面積約10haで推移している。

(3) 非主食用米の需要者（加工業者、畜産農家等）の確保

- ・平成15年に飼料イネ収穫利用組合を設立。立科町JA肉牛部会員の半数、約10名前後が加入している。現在、飼料イネを給与して生産した牛肉のブランド化、有利販売の話が進んでおり今後、飼料イネを給与する農家を増やす予定。

(4) 非主食用米の生産農家と需要者のマッチング

- ・平成15年に飼料イネ生産組合と飼料イネ収穫利用組合による立科町稲発酵粗飼料推進連絡会議を設立し、毎年の反省検討会で耕種農家と畜産農家双方の情報交換を行い、飼料イネ生産技術の向上を図っている。

(5) 非主食用米の低コスト多収生産に向けた栽培技術等の実証

- ・湛水直播栽培試験圃の設置及び現地栽培技術指導の実施
- ・飼料イネ専用品種の栽培試験圃の設置
- ・豚尿ばっ気水の追肥利用試験の実施

(6) その他

○飼料イネを給与して生産した牛肉のブランド化

農業総合試験場を中心に、肉用牛部会、JA、(株)信州ハム、地元レストラン等で連携して飼料イネを給与して生産した牛肉をPRしたところ、マスコミでも紹介され県下で広く認知されるようになった。

【今後の課題、予定等】

- ・飼料イネ栽培面積の拡大
- ・収穫機械更新の検討
- ・飼料イネを給与して生産した牛肉のブランド化、有利販売の推進
- ・豚尿ばっ気水の追肥利用等による飼料イネ生産の低コスト化